

吉岡工業会会員の(株)KYOEI (代表取締役社長高崎将二)が

6月27日(火)の日刊工業新聞に掲載されておりますので、

皆様に紹介いたします。

6月27日・火曜日 2017年(平成29年)

日刊工業新聞

# KYOEI、印社と連携

## 車部品検査治具 現地で新規開拓

【横浜】KYOEI(神奈川県綾瀬市、高崎将二社長、0467-76-1118)は、インド自動車部品検査治具メーカーのTarata Tools(タラツール)を技術支援し、現地で新規顧客開拓に乗り出す。タラツールがインドで受注した検査治具の案件について、KYOEIが生産効率化や品質向上を支援。タラツールから報酬を受け取るほか、日系以外の自動車部品メーカーとも取引を広げ、初年度に売上高1000万円、5年後には年間で同2000万円-3000万円を目指す。

KYOEIは自動車として技術指導する。同部品向け検査治具を手がける。連携に当たり、1との取引で培った知幹部クラス1、2人を見やノウハウを注入派遣し、一定期間滞在し、タラツールの納期短縮やリードタイム削減、生産プロセスの効率化などを支援する。当初は3-5事業を支援する予定。

握手を交わす高崎社長(左)



を要し、タラツールの納期は「(KYOEIより)3倍程長い」(高崎社長)と開きがある。タラツールのマシナリーは「インドでは日本基準や高品質

の企業が求められている。連携の意味は大きい」と話す。KYOEIはタラツールを通じて日系メーカーの検査治具のメンテナンスや修理なども支援するほか、海外顧客の新規開拓を狙う。「自動車業界の地図で見ると今後の生産の中心はインド。インドに連携企業や拠点があることが重要」(高崎社長)とみる。

タラツールは、KYOEIが中心となって運営する複数社の自動車部品検査治具メーカーが発注で連携するネットワーク「検具net」にも加入する。このたびの連携は商社の東西サムエル(川崎市麻生区)が仲介した。KYOEIは、プレスなどで製造された自動車部品を治具の凹凸に合わせることで部品の寸法や厚さを即座に計測できる技術などに強みを持つ。